社神日春

もくじ

宮司挨拶／祭典ごよみ
夏季大祭の意義について
神輿巡行を振り返る
日本書紀　編纂十三〇〇年　経津主命
茅の輪神事
コロナ対策について

社報 春日神社

第三十三号

発行日　令和２年６月10日

発行者　〒870－0031
大分市勢家町４－６－87
春日神社 宮司 宮本隆之
TEL097－532－5638

題字　東郷平八郎

ご挨拶

宮司　宮本隆之

昨年五月、我が国では『践祚改元』という大きな時代の節目を迎え、「平成」から「令和」の大御代へと移りました。当社でも新元号として初めて迎えた今年の正月には、例年のように多くの人々が参拝に訪れて、それぞれが新しい時代の始まりに夢と希望を抱いていたのでしょう、御神前で手を合わせる姿は、とても真剣な様子でありました。しかしそんな矢先、「新型コロナウイルス」という疫病が世界中で猛威を振るい、日本国内でも感染が拡大し、社会情勢や日常生活のあらゆる物事に支障をきたすようになりました。

立皇嗣ノ礼の延期をはじめ国内の伝統行事に於いても、歴史ある大きな祭り、また各地域神社の夏越大祭神輿巡行等が、人の密集する状態を拒めない事を理由に、次々と中止となっております。本来、夏に行われる京都の祇園祭や大阪の天神祭、博多の祇園山笠等は、疫病鎮静を祈願するために始められた神事であります。また、同様に中止となった隅田川の花火も、江戸時代に八代将軍徳川吉宗が大飢饉や疫病を受け、飢えや病で亡くなった人々の慰霊と疫病退散を願って始められたと伝えられているものです。このように考えますと、まさに国難とも言える状況である今こそ、あらためて先人たちが培ってきた神仏への敬いの心を見つめ直す時と存じております。

当社ではこれまで、毎月一日・十五日の月次祭を始め、毎日の朝拝神事にて早期の疫病鎮静祈願を行って参りました。また、夏越大祓式に併せ、無病息災・疫病消除を祈願した御札を謹製して頒布致します。多くの皆様に御札をお受け頂き、家庭でお祀りいただきたく思います。

貞永式目に、『神は人の敬により其の威を増す』という言葉があり、これは「人が神を敬えば敬うほど、戴くご加護は大きい」という意味です。多くの皆様の祈る気持ちが、大神様の力を生み、事態が早期に終息する事を願うばかりです。

祭典ごよみ

六月　三十日　水無月大祓式
七月　十八日　夏季大祭　宵祭
十九日　夏季大祭　夏越大祭
九月二十五日　摂社天満社祭
十月　十八日　秋季大祭　宵祭
十九日　秋季大祭　神幸祭
潮掻き神事
十一月十五日　七五三祭
※当日に限らず、毎日祈願祭を奉仕しています
十二月三十一日　師走大祓式・除夜祭
毎月一日・十五日は月次祭

夏季大祭について

一ヶ月後に迫りました当社夏季大祭は、コロナ禍による感染の不安を払拭できないことから、大人・子供それぞれの神輿巡行と神楽の奉納が止む無く中止となりました。

従いまして本年度の行事としては、神職・総代による祭典のみということになります。氏子崇敬者皆様には何卒ご理解の程お願い申し上げます。

なお、境内や参道には奉賛者による例年通りの「奉燈」が灯されますので、どうぞご参拝の上ご覧頂きたいと存じます。

七月十八日（土）
午後四時　宵祭

七月十九日（日）
午前十一時　夏越大祭

春日神社・夏越大祭の起源

大分市の夏祭りといえば、各神社の神輿や山車が巡行する勇壮で賑やかなものですが、当社も「御町出（おまちで）」と称して七月十八～十九日の二日間にわたり夏越大祭を行っています。

明確な起源は不明ですが、かつての府内城下、今は大分市中心部の夏の風物詩ともいうべきものです。

かつての当社夏越大祭での山車。祇園祭の形式を伝えるものです。

府内の夏祭りの起源

全国的に夏の代表的な祭りといえば祇園祭です。この祭礼は京の八坂神社（当時は祇園社）の祭礼で、夏に蔓延する疫病を鎮めるために行なわれ、祇園信仰として全国各地に広がっていきました。しかし、ここ豊後府内の祇園社は少なく、府内城周辺においては上野の弥栄神社があるぐらいです。府内は大友氏が永年、守護大名として治めてきた地です。建久年間（一一九〇年代）、府内においても疫病が流行したため、大友能直公が京の祇園社より御分霊をいただいたとされ、明治期まで花鉾など盛大な祇園祭が行われていました。

また江戸期には歴代藩主が疫病を鎮める祇園祭を各社町内に奨励し、神輿を寄進しています。当社にも大給松平家ゆかりの神輿が現存しており、旧暦の時代の祭事記録に「六月御祓」とあります。これが現在の夏越大祭へとつながりました。つまり、疫病を鎮める祇園信仰・祟り神などを鎮める怨霊信仰と六月の大祓が入り混じり、今日の夏祭りが形成されていったのではないでしょうか。

夏祭りの意義

梅雨時期の六月から立秋を迎える八月は高温多湿となり、食べ物も腐りやすく、また人々の気力さえも失くす季節です。

神道において「祓い」という行為は最も重要なものです。知らず知らずに心身についたケガレは「気枯れ」とも書き、おのずとやる気など気持ちが低迷することをいいます。

我々、日本人には暑気払いという文化があります。ジメジメと暑い夏をのりきるため、様々な知恵が編み出されました。簾、風鈴、うちわなど空間を涼む方法、すいかやきゅうり・なすといった夏野菜、甘酒・うなぎを食して、体を冷ましたり、体力をつけたりする方法。これら暑気払いと同様に夏祭りも同様の意味合いがあるのです。衛生状態、医療技術も昔とは格段に違っています。しかし先人から伝わってきた歴史のある伝統的な神事です。新型コロナウイルスという百年に一度とも言われる疫病に悩まされている今日の私たち。これを機会に夏祭りの意義を再認識したいものです。

神輿巡行を振り返る

本年は夏季大祭について大幅な変更を行いました。神輿巡行が無い年となりますが、過去三十年の写真を通して少しでも御神輿の雰囲気を味わっていただければと思います。

春日神社夏季大祭

春日神社夏季大祭

日本書紀編纂（一三〇〇年（令和二年）

神話に息づく春日のご祭神 ―第二回

経津主命
ふつぬしのみこと

武甕槌命とならぶ武神

経津主命御神影（香取神宮宝物館所蔵）

天日隅宮（想像図）

春日神社　御祭神

武甕槌命（たけみかづちのみこと）
天津児屋根命（あまつこやねのみこと）
経津主命（ふつぬしのみこと）
姫大神（ひめおおかみ）

国譲りと出雲大社の造営

出雲の**大国主命**（おおくにぬしのみこと）に対し、これからの地上を治めていくのは天の**天照大神**の子孫であることを認めさせる「国譲り」を成功させるべく、天の高天原では誰を地上に降ろすかを選ぶ会議が行われた。神々から選ばれたのは**フツヌシ命**である。しかし**タケミカヅチ命**が**フツヌシ**独りだけ選ばれるのは不服だとして申し立てた結果、二神共に出雲へ降り立つこととなった。

二神は**オオクニヌシ**に勅命を示すも疑われ、本来自分のところに来るべき者たちではないと拒絶される。そこで新たに下された勅命は**オオクニヌシ**が住むべき天日隅宮（あまのひすみのみや）（現在の出雲大社）の造営を含む殷懃（いんぎん）なものであったため、二神は**オオクニヌシ**とその息子たちから地上を譲る同意を得ることに成功する。そしてその同意に従わなかった諸々の鬼神・星神を討ち、帰順させた。

旧暦十月、出雲に集った八百万の神達が人々の縁結びを定めている様子

今まで治めてきた地上の事から離れることとなった**オオクニヌシ**は、隠された道理の世界（人々の縁結び、死者の世界など）を治めていくこととなる。そして天の神によって造営された天日隅宮に鎮まり、その祀りを**天穂日命**（あめのほひのみこと）（現在の出雲大社宮司・千家家の祖先神）が行っていくこととなる。ここに至り、**フツヌシ・タケミカヅチ**は国譲りの任を全うする。

香取神宮社殿
元禄十三（一七〇〇）年に第五代将軍徳川綱吉公によって造営され、奥に見える本殿は国の重要文化財に指定されている。

上古の香取・鹿島神宮の想定図
（東実 著・『鹿島神宮』学生社より）
海上への出入りを監視するような要所にある。

かとりじんぐう 香取神宮から国を守護

フツヌシはイザナギ・イザナミの神生みにおいて、**イザナギ**が御子の火の神**カグツチ**を斬り殺した際に、剣の根元から飛び散った血に由来して生まれた。東国随一の古社、「香取神宮」に武神として祀られている。窮地を救い世の乱れを平定する武神として、また武道の神として崇敬を受けてきた。中臣氏（藤原氏）の氏神社である春日大社に**フツヌシ・タケミカヅチ**の二神が祀られているのは、香取神宮・鹿島神宮のある常総地方が中臣氏の本拠地だったため、両社の祭神を勧請したものである。

香取神宮に「要石（かなめいし）」と呼ばれる不思議な石がある。神代より地中に住むという大ナマズを香取・鹿島の二神が地中深く石棒を差し込んで、地震を起こすのを抑えているとされる。

経津主にまつわる剣

布都御魂剣（ふつのみたまのつるぎ）
―神武天皇を助けた神剣

師霊剣ともいい、布都御魂剣はご神体ではなく、経津主命の神魂そのものであるという。

武甕槌命（たけみかづちのみこと）が携え、経津主命と共に出雲の国譲りを成功させ、のちに神武天皇が用いて大和を平定する際にとてつもない霊験を発揮した一振りの太刀。

その後、物部氏の祖先である可美真手命（うましまでのみこと）が宮中で祀っていたが、第十代崇神天皇の世に石上神宮（いそのかみ）（奈良県天理市）に移された。やがて境内拝殿裏の禁足地に埋められるが、明治七年発掘され御神体として祀られるようになる。

石上神宮には他に素戔嗚尊（すさのをのみこと）が用いて八岐大蛇（やまたのをろち）を斬ったと伝わる天羽々斬剣（あめのはばきりのつるぎ）も祀られており、日本の神代から伝わる剣が二振り、奉安されている。

夏越の大祓式　茅の輪神事のご案内

一年のちょうど半分にあたる六月三十日には全国の神社で大祓式が行われます。この日、境内に茅（かや）で作られた輪が立てられ、「茅の輪（ちのわ）神事」と呼ばれる行事が執り行われます。この神事は半年の間に知らず知らずして身についた罪穢れを祓い除いて、無病息災・厄難消除を祈る神事です。

水無月の大祓式は、「夏越の大祓」とも呼ばれ、元気に暑い夏を乗り切るとともに、新たに迎える半年をさわやかにまた清らかに過ごしていこうとする、私たちの祖先の生活の知恵とも言うべきものです。

本年は当社でもコロナウイルスの発生以来、毎朝ご神前に鎮静祈願の祝詞を奏上し、病気が消え失せ、少しでも早く暮らしに日常が戻ってくることを祈願しております。この水無月の大祓式は、茅の輪をくぐることで悪い流行り病から命を守るために行われてきました。そしてまた大祓は自分自身だけでなくその土地一帯も清らかにするものです。この神事を受け、病気に負けないように心と体を整えて過ごしてまいりましょう。

当社では三十日当日の朝から、神職の手により一本一本選り分けられたみずみずしい茅と青竹で作られた「茅の輪」が本殿前に設けられます。

今年も希望者を対象とした大祓祈願祭を下記のとおりに斎行致しますので、ご都合に合う日時をご確認の上、ご来社のうえお祓いをお受けください。また、企業・団体での大祓祈願祭もお受けしております。社務所までお問い合わせください。

尚、この「茅の輪」は境内に数日間残しています。

水無月の　夏越の祓い　する人は
千歳の命　延ぶというなり

夏越大祓祈願祭

一、日時

●六月三十日（火）
・午後四時半　・午後五時
・午後五時半　・午後六時

●七月　一日（水）
・午後四時　・午後五時

●七月　四日（土）
・午後三時　・午後四時

●七月　五日（日）
・午後三時　・午後四時

※受付は各開始日時の二十分前までです。
※コロナ対策のため空間を確保する必要から、先着二十名を超える場合はお待ち頂き、右設定時間に連続して執行致しますことを、あらかじめご了承ください。

一、初穂料
お一人様　一千円
※授与所での受付時にお納めください。

一、当日の流れ
①受付にて申し込み、人形（ひとがた）に氏名を記入
②大祓詞奏上、切麻・大麻によるお祓い
③茅の輪くぐり
④本殿にて祈願祭参列
⑤撤下品（おさがり）授与
⑥終了
※祭典は神職により執り進められます。所要時間は約三十分です。

なぜ茅の輪をくぐると疫病を避けられるのか？

それはある昔話が起源となっています。

昔、旅の途中で宿が見付からず困っている神様がいました。神様は、蘇民将来（そみんしょうらい）、巨旦将来（こたんしょうらい）という兄弟に宿を貸してほしいと頼みました。しかし弟の巨旦将来は、裕福な暮らしをしていたのに断り、兄の蘇民将来は貧しい暮らしをしていましたが、神様に宿を貸して食事を提供しもてなしたそうです。

そして数年が経ち、再び蘇民将来のところにその神様が訪れてきました。自分は「スサノオ」という神である事を伝え、もてなしのお礼に「もしも疫病が流行した時は、茅の輪を腰に付ければ逃れられるだろう」とお教えになりました。すると数年後、その地域で疫病が流行したとき、茅の輪を腰に付けた蘇民将来の家族だけは助かったそうです。（備前国風土記・二十二社註式（祇園社）、蘇民将来説話）

もともとは腰に付けていた茅の輪がだんだんと大きくなり、やがてくぐるようになったようです。

茅の輪のくぐり方

左まわり・右まわり・左まわりと、８の字を書くように三度くぐり抜けます。そうすると身も心も清らかに祓われると云われています。

夏越大祓限定御朱印　初穂料三〇〇円

・朱印帳の大きさで茅の輪印の大きさが異なります。
印は神社側の判断で押させて戴きますのであらかじめご了承下さい。
・期日…６月30日～７月31日まで

新型コロナウィルス感染症対策について

左記の内容にて対応させていただいております

神社社頭での対応

一、祈願受付、守礼授与の頒布時間は左記の通りです。
　八時三十分～十七時の間

二、手水舎のひしゃくは撤去。流水にてお清めいただいております。

三、職員はマスク着用にて応対させていただきます。

四、昇殿参拝の折には、マスクの着用のままで結構です。
　また、殿内には消毒用アルコールを備え付けております。

五、祈願祭を行う本殿は戸を開放し、常時換気されています。
　土日等の混み合う時間帯につきましては、十分な物理的距離を確保した形で複数組にてご案内をすることがあります。

境内は開放されておりますので、二十四時間参拝が可能です。
恐れ入りますが風邪のような症状のある方はご参拝をお控えくださいますようご協力をお願いいたします。

婚礼披露宴での対応

◉当面の間、挙式の受付は一日一組といたします。

◉式殿内は戸を開放し密室ではありません。
　また披露宴会場内の換気装置の作動、施設内の換気を徹底いたします。

◉スタッフはマスクを着用して対応いたします。
　また始業前に検温・体調確認を行い、手洗い消毒を徹底いたします。

◉披露宴会場内複数個所に手指の消毒設備を設置いたします。

◉披露宴会場は最大百二十名収容でご案内しておりますが、披露宴中の飛沫感染が防げる十分な間隔を確保するため、人数に応じてテーブル配置等のご案内をさせていただきます。（写真）

◉マイク等は使用の都度消毒いたします。

◉トイレ手洗い場は、水道は自動式、せっけんと消毒用アルコールの設置、ペーパータオル対応となっております。